

インドネシア共和国東ジャワ州シドアルジョ地域における熱泥流被災者のエンパワーメント

活動地域  インドネシア



回収した銀板・銅板を住民みなで評価する。

課題

2006年5月に東ジャワ州シドアルジョで発生した熱泥流噴出事故は、8村2万世帯もの避難者をうみながら今日も噴出を続けており、周囲の村人は環境汚染に苦しんでいる。

目標

熱泥流による環境汚染の影響低減のための技術的社会的経済的スキルを住民が身につける。そのため①環境汚染の実態把握 ②汚染の影響低減 ③生業構築の支援を行う。



今後の展望

①カドミウムや鉛の汚染の原因特定のため重金属モニタリングを熱泥の上流域まで拡大②生分解や植物の重金属吸着性を用いた浄化装置で処理水を農業などに利用③行政担当当局や日本のNGOとの協力関係の再構築

ひろげる助成

2年目

実践

活動内容と成果

- ①銀板・銅板を用いた大気モニタリングは住民のみで実施できるようになった。また、重金属や芳香族炭化水素のサンプリングも専門家の指導の下住民自身の手で行っている。バイオモニタリングは地元の高校生への環境教育とタイアップして実施した
- ②地元の植物種のうち汚染浄化が見込める樹種を特定し、生物分解性水質浄化装置1基の建設・稼働を行った
- ③水耕栽培と魚養殖を合わせたアクアポニックスが軌道に乗りつつある。プラウィジャヤ大学の研究者やNGOとの連携は進んだが、行政・ジャーナリストとの連携は一部に留まった



アクアポニックスで栽培した野菜を収穫する

大気汚染計測用銅板・銀板の回収数 **240基**

生物分解性浄水施設の建設・稼働 **1基**

今年度計画の達成度 **90%**

目標達成度 **75%**

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

新型コロナウイルスに伴う「大規模な社会的制限」政策により、規模の大きい集會が開催できなくなった。

■工夫した点

村落単位で小規模なミーティングを数多くこなした。総括ワークショップは、村の会場とオンライン (Zoom) で結んで開催。

Jalan KH Khamdani
Siwalanpanji No 13C Buduran
Sidoarjo, Jawa Timur, Indonesia
61250000

HP : <https://remedi-sidoarjo.eutenika.org/>

